



県内主要産業の動向

2017年2・3月

◎順調 ○まずまず ◐やや低調 ●不調

業種	景況			コメント
	17年1月	17年2月	先行き	
金属洋食器	●	●	→	受注は依然低調。特に、ホテル・レストラン向けの動きが鈍い。そうした中、2月に開催された展示会では小口ながら海外からも引き合い。イベント開催による認知度アップと販路拡大の効果が徐々に結実。一方で、経営者や従業員の高齢化に伴い、後継者難が喫緊の課題となりつつある。
金属 ハウスウェア	●	●	→	受注は全体的に低調。特に、大都市圏の飲食店やホテル向けを中心に業務用の厨房用品の動きが鈍い。一方、個人向けの家庭用調理器具にはヒット商品がみられている。そうした中、産地では、ネット販売を通じ、小口の海外輸出に注力する企業も徐々に拡大中。
作業工具	◐	◐	→	国内向けは、春の需要期に向けて生産、販売共に上がり基調。輸出も東南アジア各国での旧正月が終わり復調。中国、韓国等で景気後退が懸念されるものの、日本製品への信頼度は依然高く需要は相応にみられる。採算面では鋼材価格の更なる上昇が想定されコストアップ要因に。
電子部品 ・デバイス	◐	○	→	受注は改善。半導体関連では、市場在庫の逼迫感が強まっており、半導体や半導体素材の受注は順調。電子部品関連でも、産業機械向けなどに持ち直しの動き。また、携帯端末関連も高水準な受注が続く。先行きも堅調な受注動向が期待されるが、足下の円高基調が懸念材料に。
鋳物	●	●	↗	受注は徐々に改善。工作機械向けは各社まちまちながら持ち直し基調。IT向けにも明るさ。一方、自動車向けはなお弱含み。鉄スクラップなど資材価格が上昇傾向にあり、コスト面では厳しさが続く。受注残も次第に増えてきており、新年度以降に本格的な回復を期待する声も。
金型	◐	◐	→	受注は横ばい水準。県央産地での受注動向を反映する資材共同購入動向は前月並みを維持。用途別にみると、プレス金型では自動車関連が堅調。一方、プラスチック金型は弱含んで推移。人件費や資材価格の上昇が続くなか、納品価格の値戻しが進まず、収益性の確保が課題に。
一般機械	◐	◐	↗	スマートフォン関連は金型、部品向けで回復傾向。建設・プラント関連は好材料に乏しい。自動車関連は中国・北米市場向けが好調。航空機関連は欧州、新興国の旅客機需要を受け高水準を維持。景気減速で不振が続いていた中国が自動車向けを中心に回復基調。全般的に中位安定局面であるが、足下の円高傾向に注視。



業種	景況			コメント
	17年1月	17年2月	先行き	
絹織物	●	●	→	十日町産地では、冬季でイベント数も少なかったものの、受注量は前年並みを確保。4月以降イベント数の増加が見込まれており、受注量の拡大が期待される。コスト面では、白生地等の資材価格下げ止まりが負担に。五泉産地では、生産量・数量とも前年を下回り、総じて厳しい状況が続いている。
合織織物	●	●	→	栃尾産地は秋物受注期。消費低迷や輸入競合品増加により、受注量は前年を大きく下回る。足下では秋物生産期入りしたが、生産量は前年割れで推移。見附産地は秋物生産期で、生産量は前年を下回る。足下では秋物生産が終了し、端境期入りした企業も。原材料が高止まりし、収益面での厳しさが続く。
ニット	●	●	→	春物生産期。生産量は前年を大きく下回る。足下の生産は夏物へシフトしているが、百貨店や専門店での販売スタンスが定まらず、アパレルの発注姿勢はなお慎重。今後は秋物受注への移行期となるが、全体的に振るわない見込み。糸メーカーでの減産で、一部で調達不能の糸もあり、生産計画に支障が出ている。
木工家具	●	●	→	業況は総じて低調。業務用では小口ながら春先の商戦向け受注に相応の動きがみられる。一方、家庭用では受注確保に依然苦慮。産地組合では首都圏で恒例の展示会出展により製品をPR。各事業者でも新たな販売ルートを求めて国内外の催事へ積極的に出展しているが成果には結びつかず。
清酒	●	●	→	2月の出荷量は、県内向け・県外向けとも前年を下回った。消費者の節約志向などから飲食店向けを中心に出荷が伸び悩んでいる。3月開催の「にいがた酒の陣」は過去最高の入場者を集めた。県内清酒の人気の高さは示されており、イベントを通じた消費拡大が期待される。
米菓	◐	◐	→	2月は需要期を過ぎ、定番品が振るわなかったものの、総じて前年並みを確保。足下では春の行楽シーズンを前に、生産が盛り上がり。そうした中、各社とも新商品や期間限定品の発売により需要を喚起。配送費の値上げが見込まれており、コスト増加を懸念する声も聞かれた。
建設	◐	◐	↗	公共工事は、国や県の補正予算関連工事の発注増を受けて持ち直し基調にある。足下では県の土木部の工事が増加している。民間工事は、運輸業や製造業を中心に底堅く推移。分譲マンションの建設にも動きがみられる。住宅建設は、持家・貸家とも引き続き堅調に推移している。
大型小売店	◐	◐	→	2月はバレンタイン商戦が好調だったものの、前年のうろう年効果の反動もあり売上は総じて前年を下回った。新たに始まったプレミアムフライデーの効果は限定的との声。足下では気温が低く、春物衣料の動きが鈍い。百貨店などは、催事開催により需要を喚起。